

令和7年度 学校経営報告〈全日制課程〉

都立北豊島工科高等学校長 荒 繁勝

重点目標	当初の目標数値等	達成数値	成果と課題
<p>中途転退学者の減少 (魅力ある学校生活の構築)</p>	<p>中途転退学者の減少(学校全体で11名以内) ○ 1年生 在籍数の10%以内(9名以内) ○ 2年生 在籍数の3%以内(2名以内) ○ 3年生 全員卒業</p>	<p>学校全体では 9名 ※昨年20名 ○ 1年生 6名(うち転学者2名) ※昨年 10名 ○ 2年生 2名(うち転学者1名) ※昨年 9名 ○ 3年生 1名(うち転学者0名) ※昨年 1名</p>	<p>「あきらめない、あきらめさせない」を掲げて7年目。補習補講の充実や丁寧な指導を行ったが、中学校までに不登校を経験した生徒の入学が増加し、学校生活に馴染めず退学する生徒が昨年度に比べ10%増加している。生活リズムの乱れや学校生活に馴染めないことが主な原因である。引き続きSCやYSWを活用し、学校への興味・関心の低下を防ぎ、通常の生活が送れるようサポートする。次年度も学校生活を充実させ、転退学者の減少に努めていく必要がある。</p>
<p>進路希望の実現 (3年間を見通したキャリア教育の実現)</p>	<p>○ 進路内定 100% ○ 資格取得の推進</p>	<p>○進路内定 100% ※ 昨年100% ○資格取得の推進(主なもの) ジュニアマイスター・ゴールド 1名 ※昨年0名 ジュニアマイスター・シルバー 4名 ※昨年1名 ジュニアマイスター・ブロンズ 3名 ※昨年6名 電気工事士1種 5名 ※昨年7名 電気工事士2種 14名 ※昨年26名 2等無人航空機操縦士 11名 ※新規 防災士 35名 ※新規</p>	<p>就職活動は堅調であり、求人企業も増加した。卒業することのみを目的とし、将来に向けた進路意識の育成が困難な生徒はいない。次年度も進路決定率100%を目指して指導を行っていく。 資格指導については、徹底した補習補講の成果が表れている。電気工事士では第二種だけでなく第一種の合格者も輩出し、安定した指導体制が構築されてきた。今年度からは二等無人航空機操縦士や防災士の養成も開始した。フォークリフト等、防災に関連する資格指導も行っており、今後多くの資格取得に挑戦させジュニアマイスター・ゴールド取得者を増加する。</p>
<p>安心・安全な教育環境</p>	<p>○ 特別指導の減少:昨年度以下 ○ わかりやすい授業の定着 ○ いじめ・体罰”0”</p>	<p>○特別指導件数: 9件 ※ 昨年 7件 ○授業の充実: 生徒による授業満足度 51.8% 全教員での長期休業中等の補習の実施 放課後等の補習の実施 ○いじめ・体罰: 「0」</p>	<p>日頃の声掛けや集会での指導が効果を表し、教員と生徒間のコミュニケーションが円滑になってきた。特別指導件数も近年の中でも比較的少なく、学校生活は落ち着いている。生活指導面では、生徒に自主的に改善させる指導を徹底してきた成果が見られる一方、ややルーズになってきた面も見受けられた。次年度はさらに生徒の主体的行動を育成できるよう努めていく。生徒会による主体的な活動も定着し、朝の正門での挨拶、学校説明会での司会、文化祭紹介動画の作成等が積極的に行われている。学習面では、各教科で補習補講が実施され、レポートや課題の未提出が減少し、基礎学力の定着が進んできた。一方で、授業満足度は教員73.1%に対し生徒51.8%と約22ポイントの差があり、今後は授業改善が課題である。</p>
<p>広報活動の充実と募集対策</p>	<p>○ 学校説明会等の充実:8回以上 ○ HPの充実:更新回数100回以上 ○ 募集倍率:1.1倍以上</p>	<p>○学校説明会(個別相談会外部会場も含めて):16回 ○中学校訪問の充実:延べ84校 ○HPの更新回数:176回以上 X等:108回 ○募集倍率(充足率): 61.4%</p>	<p>合同説明会や学校説明会は予定回数を実施でき、昨年度より参加者人数が増加した回もあったが、応募数の増加には十分につながらなかった。今後は近隣区市へのアピールをさらに強化し、工科高校としての特色や本校のPR方法を再検討する必要がある。特に、防災分野への興味・関心が低下している中学生に対し、周知度向上のための取り組みが求められる。今年度は「都市防災技術科」の内容をより深めた広報活動を実施し、X等のSNSやHPの活用を進めてきたが、次年度も視覚的訴求力を高め、PR活動の充実を図る。</p>
<p>学校経営の改善</p>	<p>○ 地域との連携事業の充実 ○ 教職員のライフワークバランス</p>	<p>○授業における地域連携延べ回数 48回 ○地域のイベントへの参加 5回 ○時間外勤務時間の減少に取り組む</p>	<p>防災技術教育の推進にあたり、企業・大学・関係団体と連携し、16団体と協働して授業を実施した。自動車関連企業による実車の持ち込みなど、実体験を通じた教育活動を行い、キャリア教育の充実を図った。今後もこの取り組みを継続し、最先端技術と災害時に必要な基礎知識の習得を進めていく。また、ワーク・ライフ・バランス推進のため、時間外勤務削減を継続して呼びかけている。月80時間超の職員は大幅に減少し、45時間超についても改善傾向が見られた。今後も継続し職員の健康維持に努める。</p>